

**第 3 1 回能美市地域公共交通会議  
議事録**

日時：平成 31 年 3 月 20 日（木） 15：30～16：30

場所：能美市役所本庁舎 1 階 大会議室

参加者：

	所 属	氏 名	備 考
学識経験者	金沢大学理工研究域地域社会基盤学系・系長	高 山 純 一	会長
議会	総務常任委員会委員長	田 中 大 佐 久	
市民又は 利用者代表	辰口地区町会長会 会長	山 本 徹	
	寺井地区町会長会 会長	東 方 俊 一 郎	
	根上地区町内会長会 会長	吉 田 良	
	北陸先端科学技術大学院大学 総務課長	柴 田 裕 司	
	石川県立寺井高等学校 教諭	森 田 久 俊	欠席
	能美市老人クラブ連合会 会長	田 中 悠 紀 夫	
	能美市婦人団体協議会 顧問	田 中 玉 美	
事業者	能美市 P T A 連合会 副会長	山 岸 千 恵	
	小松バス（株） 専務取締役	新 谷 良 二	
	加賀白山バス（株） 取締役社長	茜 栄 成	
	一般社団法人石川県タクシー協会 常務理事	宮 崎 芳 信	欠席
行政	国土交通省北陸信越運輸局石川運輸支局 首席運輸企画専門官	木 村 幸 典	
	石川県企画振興部新幹線・交通対策監室 交通政策課 主幹	針 貝 広 人	代理
	石川県南加賀土木総合事務所 維持管理課長	本 多 巖	
	寺井警察署 交通課長	村 本 寛 之	
	能美市 副市長	細 川 喜 孝	副会長
	能美市 企画振興部長	橋 場 和 彦	
	能美市 産業建設部次長兼土木課長	喜 多 邦 夫	
能美市 健康福祉部福祉課長	川 本 素 子		
事務局	能美市 企画振興部地域振興課長	中 出 真 弓	
	能美市 企画振興部地域振興課主任	長 田 史 彦	
	（株）計画情報研究所 取締役	四 藤 一 成	
	（株）計画情報研究所 研究員	千 徳 信 好	

## ■議事

### 1. 開会

#### 【司会（中出）】：

皆様こんにちは。ただ今から第31回能美市地域公共交通会議を始めさせていただきます。本日司会を務めます、地域振興課、中出と申します。よろしくお願い致します。まず、お手元の資料の確認をさせていただきます。資料はA4縦の会議次第、同じくA4縦の委員名簿、同じくA4縦の地域公共交通会議設置要綱、同じく座席表となっております。また、A3横版の資料1、資料2を配布しております。

それでは、会議次第に沿って進めさせていただきます。最初に、当会議の開催に先立ちまして、能美市細川副市长より一言ご挨拶申し上げます。

#### 【細川副市长】：

皆様こんにちは。年度末のお忙しい時期に第31回能美市地域公共交通会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は以前、県庁で金融を担当しておりました。よく、金融は経済の血液と言われますけれども、交通は地域の血流であると言われています。その中核をなす公共交通は、まちづくりの観点からも重要で、市民の生活に大きな影響を与える重要な社会的ツールであるということです。言うまでもありませんけれども、地域公共交通が拡充されて利用が促進されれば、自家用車の交通量が減少、それに伴い交通事故も減少し、交通渋滞も緩和されます。当然、エネルギー消費も少なくなって環境にもやさしくなります。また、これから増えてくるであろう運転免許証を返納した高齢者が出かけやすくなり、高齢者の健康増進にもつながるということで、これからの公共交通はさらに重要度が増すということです。

今回ののみバスの再編に当たりましてはアンケート結果等々を踏まえ、分かりやすさ、便利さ、速達性の3点を再編のポイントし、さらに現行ののみバスの運行態勢を6台態勢から7台態勢を増やして再編案を組み立て、ご協議いただいております。その結果、のみバスをできるだけ移動手段として選んでいただけるような再編案になっていると思っております。さらに、その再編案につきまして、今回はパブリックコメントもいただいております。本日は、このパブリックコメントも踏まえた再編案を最終案として協議していただきまして、予定通り2020年4月の再編に向けてできるだけ迅速に運輸局へ申請したいと思っております。また、今年度から社会実験として実施しております、タクシー乗車券付き移送サービスである安心移動サポート事業につきましても、タウンミーティング等でご意見をいただいております。より利便性の向上を図るための運用の改正も行うということで、併せてご協議をお願いしたいと考えております。

本日はどうぞよろしくお願い致します。

#### 【司会（中出）】：

ありがとうございました。続きまして、当会議の会長であります金沢大学の高山純一教授よりご挨拶をお願い致します。

#### 【高山会長】：

皆様こんにちは。私はいくつかの市町で能美市と同じように地域公共交通会議、或いは活性化協議会の会長や副会長を仰せつかっておりますが、会議を見ていると、その市町の公共交通に対する思いや

熱意を感じる自治体と、淡々と進めている自治体があります。もちろん能美市は非常に熱意のある自治体のひとつであると感じております。毎年しっかり会議も開きますし、少なくとも2年に1回は市民の声を聞いてバスダイヤ、運行ルート、或いはバス停の位置を見直しながら、よりよいものにしていこうという意気込みが感じられます。これは非常に大事なことです。地域公共交通会議は淡々と済まそうと思えば済ませられる会議であると思います。変更案についても、この会議に諮ればあまり意見は出されず、そのまま終わってしまう。果たして本当にそれでよいのかと考えたときに、やはり公的資金を使って運行する地域の交通ですから、少しでも市民や市町にとってよいものにしようとする意識が大事だと思います。今回1年をかけて大幅な見直しを行うということになりました。この会でも何度か素案を見ていただいて確認もいただいております。もちろん地元の方に集まっていたいただいて詳細な意見交換会を行いました。市長自らアンケートに目を通して、これでよいのかという確認までしてございました。これは本当に凄いことだと思ながらこの会を見ております。本日は最終確認ということになりますので、細かいところまで気を配って見ていただければ非常にありがたいと思います。

どうかよろしくお願い致します。

**【事務局（中出）】：**

ありがとうございました。なお本日、委員名簿第15番の、石川県企画振興部、新幹線・交通対策監室の今村委員の代理として、同じく石川県企画振興部の針貝様に出席いただいております。よろしくお願ひ致します。また、石川県立寺井高等学校の森田委員と、一般社団法人石川県タクシー協会常務理事の宮崎委員は欠席となっております。

では、これ以降の議事進行につきましては当会議の設置要綱に基づき、高山会長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひ致します。

**【高山会長】：**

それではお手元にあります会議次第に沿って議事を進めたいと思います。

まずは協議事項第55号、平成30年度のみバスの再編に向けた検討事業について、資料1に基づいて事務局より内容の説明をお願いしたいと思います。よろしくお願ひ致します。

—事務局より資料説明—

- ・資料1 平成30年度のみバスの再編に向けた検討事業  
のみバスの再編（最終案）について

**【高山会長】：**

冒頭に事務局から説明がありましたように、この再編に向けては昨年の夏ごろから市民アンケートを行って、そのアンケート結果に基づいて再編案を検討してきたという経緯があります。普通、地方のコミュニティバスの利用者というのは、ほとんどが車に乗れない方です。その理由は、結局はその移動手段のコストを考慮すると、タクシーなどではなく、コミュニティバスや路線バスを利用することになる、というのだと思います。

では、なぜそのコミュニティバスの利用がそれほど増えないのかということをよく考えてみると、利用者や周辺の市民の意見とすれば、結局は利用し辛いということが一番大きいのです。利用し辛い理由としては、バス停まで距離があるとか、利用したい時間にバスがない、或いは行きたい場所へバスが運

行していないというものが主なものになるかと思えます。利用したい時間にバスがないということの背景は、大抵コミュニティバスというものは2時間に1便、1日4便というのが標準であり、循環式で運行しているということがあります。これは全国的に同じような仕組みで運行しているというのが実態です。よく考えて見れば、いくら時間がある高齢者であっても2時間に1本という運行頻度では利用し辛い。もちろん都会であれば誰も利用しない。都会では10分待つことにも抵抗がある人が多いが、地方であれば30分、我慢して1時間は待てるかと思われる。そう考えれば、今回の再編で事務局やバス会社が頑張っ、約1時間に1本の運行頻度のバスダイヤを導入したということは凄いことであると思う。金沢であれば15分に1本ふらっとバスが運行していますが、能美市でそこまでの需要があるかと考えれば、そこまででもない。しかし、1時間に1本バスが運行しているのであれば、利用者は相当増えるのではないかと思うのです。自分が車を持っていてもバスが便利に利用できれば、利用するチャンスはあると思えます。そう考えると、あとは今よりも上手くのみバスをPRして、これだけ便利になったのだと周知することが大切。一方、料金に関しては1回の利用が100円であるのでほとんど不満はないので、今後も100円である限りは、料金対する不満は出てこないと思えます。確かにぐるっと回ると約1時間かかるという点は、運行ルートとしては少し長いかなとは思いますが、1時間に1本バスが回ってくるダイヤになったのは、非常によいことだと感じております。

ただし、今後も今のような利用実態が続くようであれば、それはもったいないと思う。ちゃんと地元がこのバスを育てる、地元の皆さんで乗るということが大事だろうと思えます。

最初に私がこのように感想を述べると、委員の皆様方は意見を言い辛いかもしれませんが、もっと便利にしてもらいたいという意見があってもよいと思えます。事務局がそれに応えられるかどうかは、2年後にもう一度見直しのチャンスがあるはずなので、見直しの際にまた考えます。そして利用者数が例えば1.5倍くらいに増えてバス車両を増やすということになれば、さらに便利になるだろうと思えます。それも含めて、是非地元に戻られてPRをしていただきたいと思います。

**【山本委員】：**

今高山会長が言われたように、利便性は非常に高まったのですから、いかにそれをPRするのかを十分考えていくことが必要。今まで私たちも何回かいただいているように、バスダイヤ表を各家庭に配っただけででは、それを見て利用しようと思うのは難しいと思えます。

もう1点、観光専用バスを5便運行するという計画になっていますが、これについても県内外から能美市を訪れる人にPRするか、その点の工夫が非常に大切だと思います。

**【高山会長】：**

事務局では何かよい方策を考えていますか。

**【事務局（長田）】：**

のみバスの利用促進のため、市役所としては今後、各町会、町内会に向けてルートやダイヤ、再編案の説明を行っていきたくと考えております。その際には、どうしても自家用車が中心的な移動手段にはなるのですが、バスを利用して支えるという視点からコミュニティバスを利用してもらえるように、モビリティ・マネジメントを推進していきたく。そのためにも、丁寧な説明を市役所として行っていきたくと考えております。各町会、町内会の皆さんにもそのような趣旨をご理解いただきたいと思います。その他ポスター、チラシ、ホームページを活用しまして、来年度は周知を図っていきたくと思えます。

【高山会長】：

ありがとうございます。それでは吉田委員、いかがでしょうか。

【吉田委員】：

今お話にありましたように、周知徹底を図っていくことが大事ではないかと思う。というのも、バスの乗り方すら知らない人がおり、家族にも聞きにくいということがある。それで本当は利用したいのだけれど、利用できないという人がいる。対象を絞って、年齢に応じた説明を行うことが大切だと思います。

【高山会長】：

では東方委員、いかがでしょうか。

【東方委員】：

私は寺井地区の中の石子町の町会長ですけれども、以前にダイヤ改編があった際に、石子の皆さん向けに自分でアレンジした時刻表を作成したのですが、その時も連携バスと循環バスのダイヤを上手く見せようとしたところ、2枚組みになって少し見辛くなってしまいました。今回の改編では連携バスに特化して対応できるようになりましたので、町内向けの1枚ものの時刻表にアレンジできる用工夫したいと思います。このようなことを各町内で工夫していただけるような、そんなPRの仕方もよいのではないかと思います。いずれにしても、分かりやすく、扱いやすいダイヤの編成となり、いい形のものできていると思います。あとは各地域でそういう努力を行っていければそれなりの効果は出てくるものと思います。

【高山会長】：

では市老人クラブ連合会の田中委員、いかがでしょうか。

【田中由紀夫委員】：

先ほど副市長が免許証返納した方の利用ということを仰いました。その通りだと思いますし、私も今年80歳になりまして、そろそろそんな時期も近いのではないかと考えております。そのためにも先ほどお話があった通り、PRが大事だと思います。市老人クラブ連合会の理事会、それは寺井、辰口、根上から5名ずつ参加し、行事の前に年5回ほど行っております。そこでの周知の徹底を図る。また、今言いました、寺井、辰口、根上の支部でも理事会をやっております。これも各単位クラブから代表者が出てきておりますので、これを利用してのPRを是非やってもらおうよう、これから伝えていきたいと思っております。

【高山会長】：

ありがとうございます。婦人団体協議会の田中委員、いかがでしょうか。

【田中玉美委員】：

私はまだ自分で利用したことがないので、一度利用してみて、そのよさや欠点を自分で確認してから、地道に地元の町内の皆さんにPRしていきたいと思いました。

【高山会長】：

ありがとうございます。PTA 連合会、山岸委員いかがでしょうか。

【山岸委員】：

今ちょうど入学シーズンということで、どうやって通学するかという会話が多いのですが、能美根上駅に行く便利なバスがあればいいなという意見をよく聞きます。私も、今このような再編行っていて今後は便利になる、という話をすると、早く実現させてほしいと言っていました。あと、能美根上駅まで行く特急便も非常に魅力的だということも皆さん仰っています。今後、分かりやすい時刻表等を発信してほしいと思いますし、皆さん期待していますので、よろしくお願い致します。

【高山会長】：

ありがとうございます。北陸先端科学技術大学院大学の柴田総務課長、いかがでしょうか。料金も安いので学生、特に留学生は使えばよいかと思うのですが。

【柴田委員】：

今回の再編で先端大学を経由する便が非常に増えるということで、感謝しております。お話にあった通り、先端大学では留学生比率が非常に増えておりますので、前回の会議でも発言しましたが、PR につきましては英語表記での対応もお願いしたいと思っております。よろしくお願い致します。

【高山会長】：

ダイヤはまだ日本語表記だけですか。

【事務局（長田）】：

ダイヤは日本語表記ですが、車内放送や行き先表示は再編に合わせて英語でも対応したいと思っております。

【高山会長】：

是非その辺もご配慮いただければと思います。その他いかがでしょうか。

では特に他にご意見ないようですし、ご意見をうかがったところ、私も含めてよくなったと感じておられるようですので、この案で最終案としたいと思います。ありがとうございました。

それでは特にないようでございますので、進行を事務局へお返ししたいと思います。ありがとうございました。

【事務局（中出）】：

皆様、今日はお忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございました。2020年4月に向けまして、のみバスの再編を目指して準備を進めて参ります。

これで第31回能美市地域公共交通会議を終了させていただきます。

以上